

頑張る

農業法人

綾部市上八田地区で2月に設立した「株式会社上八田ファミリー農場」。法人化を機に、新たに酒造好適米や加工用米の他、特産「万願寺甘とう」などの生産に挑み、複合経営による経営の向上を目指す。さらに、農地中間管理事業を活用して農地集積を進める計画で意欲的だ。

同地区は、同市の中心部から約4キ北に位置する中山間地域。約38軒の農地で78戸のうち68戸が農業経営を行う。

約20年前に圃場（ほじょう）整備が行われたものの、高齢化により農業経営を委託したいとの要望が高まり、こうした声に応じて農作業受託組織「上八田ファミリー農場」を17人で立ち上げた。

3・5畝で米の生産を受託してきたが、同市の指導で「京力農場プラン」の作成を検討する中で、農地集積により農業経営基盤を確立していくためには法人化が必要と判断。同市やJ A京都にのくになどの支援を受けて、全農家の合意により受託組織を母体に設立発起人11人の出資で同社を設立した。

代表取締役社長に塩尻泰一さん（72）が就任し、取締役5人と監査役2人、農繁期には地区の農家をパートタイマーとして雇用し経営する。

現在は農地7畝で同J Aの指導を受けてこだわりの特別栽培米「コシヒカリ」1・8畝に加え、今年から酒造好適米「五百万石」1・9畝、京

(株)上八田ファミリー農場

綾部市



今年から栽培した万願寺甘とうの管理に励む塩尻さん

事業活用し農地集積

都府オリジナルの酒造用掛米「京の輝き」1・5畝、大納言小豆の生産に取り組み。農閑期となる今年の冬

特産導入 地域振興に意欲

場には小カブやキャベツの導入、万願寺甘とう栽培用ハウスの増設、今年度からスタートした農地中間管理事業を活用して農地を20畝まで集積する計画で、同社の経営を軌道に乗せて、地域農業の拠点としていこうと意欲的だ。

塩尻社長は「農地は地域全体の財産と考えている。大切な財産を積極的に活用していくことが農地を守ることになる。J Aの指導で安定収入が見込める万願寺甘とうや小豆の生産に取り組み始めた。小豆は効率的な作業ができるよう汎用（はんよう）コンバインを導入した。誕生したばかりの法人だが、地域の活性化のためにも新規就農希望の若者を地区外から受け入れて、J Aと二人三脚で地域農業を振興していきたい」と話す。
▽法人所在地 綾部市上八田町地生12。電話 0773（44）1176（塩尻さん宅）。